



桜と校舎 2021.4.21 撮影



第 45 号

《発行》
 函館大妻高等学校
 同窓会
 「いとぐるま」編集部
 〒040-0002
 函館市柳町14番23号
 電話 (0138) 52-1890
 FAX (0138) 52-1892
 印刷 (有)三和印刷



同窓会会長

平 田 優 子

S 55年卒業(旧姓若山)

厳しい冬の寒さも遠のき、春めいた暖かな日差しに少しだけ心が和らぐような気がしております。同窓生の皆さまにおかれましても、長らく続くコロナ禍の中で何かと制約の多い不自由な日常を過ごされていくことと存じます。三回目のワクチン接種も進んで来てはいるようですが、次々と変異を繰り返すウイルスに翻弄され、未だに感染拡大に歯止めがかからず、第六波の終息を見ないままに第七波の到来が懸念される事態です。今年こそは同窓会行事も再開できるのではないかと期待しておりましたが、函館市内の感染者数も一向に下がる気配を見せない状況が続いているため、非常に残念ではございますが本部・各支部共に令和四年度も同窓会総会及び親睦会の開催を中止することといたしました。来年の秋には母校創立一〇〇周年の御慶事を迎えます。その時までには何と切に願ひながらナ禍から抜けられますようにと切に願ひながら粛々とお祝いの準備を進めて参りたいと存じますので、皆さまにもより一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

さて、テレビや新聞では連日ロシア軍によるウクライナへの軍事侵攻のニュースが報道され

ております。長引くコロナ禍の中で失業や生活苦に追い込まれながらも必死に生きていく市井の人達に、この戦争によって更に灯油やガソリンの高騰、食料品の軒並みな値上げなどが追い打ちをかけるように襲ってきています。戦後に育った私にとって戦争は過去のものと認識で今日まで過ごして参りましたが、画面に映る信じられない光景にただ言葉もなくやりきれない思いで途方に暮れるばかりです。跡形がなくなるほど街も建物も破壊され、爆撃から逃げ惑う人々や家族を失い泣き崩れる人達の姿が映し出される度、見るに堪えられないくらい目を見てしまします。戦争を知らない私達に、世界中の人達に、まざまざと戦争の悲惨さを伝えてくれているというのに何の解決の糸口も見つからないまま尊い命がまた一つまた一つと消えて逝ってしまいます。為す術がないとはこういう事を言うのでしょうか。誰一人として望んでいないこの戦争が一刻も早く終結して市井の人達に暮らしやすい日々が訪れることを願ってやみません。

同窓の皆さまの中にもコロナ禍や様々な事情で最愛の家族や友人との別れの悲しみに心を痛めていらつしやる方がいるかもしれません。今回の戦争の報道を通して、いつも通りに過ごせる毎日は、かけがえのない、何物にも替えられないほど大切で守るべきものなのだと、決して対岸の火事ではないのだと改めて教えられ心に刻まれたと思います。

心穏やかに平和な国で過ごせる日々感謝しながら、令和五年十月五日、母校創立一〇〇周年のお祝いができますように、その席で皆様のとびつきの笑顔にお会いできますようにと祈念しております。



大妻の生徒たち、頑張ってます!!

学校長 池田延己
学務主任 同窓会名誉会長

同窓生の皆さまには「オミクロン株」に負けず元気にお過ごしのことと思います。学校は家庭内感染で濃厚接触者になりPCR検査を受検するなど一寸不安なところもありますが、生徒は基本的な感染症対策にしっかりと取り組んでいます。

今回はコロナウイルスが猛威を振るう中でも工夫して実施された学校行事や、頑張っている生徒たちを紹介しようと思います。まずは、コロナウイルスの隙間を突いて昨年十二月六日に出発した修学旅行です。ユニバーサル・スタジオ・ジャパン、宝塚歌劇団の鑑賞、京都市内自主研修、東京デイズニードリゾート、都内のバス見学、お台場での自由行動など、四泊五日の旅は二年生にとって一生の思い出になったと思います。まさに綱より細い糸渡りでした。九月三十日には、千代台陸上競技場での実施を市民体育館のアリーナに変更してスポーツ大会も実施しました。東京パラリンピックで金メダルを獲得したポッチャを取り入れるなど、体育科を中心に工夫した内容で成功裏に終了することができました。十一月十三日には家政科の学習報告会が芸術ホールで開催されました。ミス・ユニバース・ジャパンの

最終選考に進んだ本校家政科卒業生の石井千恵さんをゲストに招き、約二五〇人の入場者の前で生徒たちは日頃の学習成果を存分に発揮してくれました。フィナーレのファッションショーは見応え十分で、観客の皆さんにかなりアピールできたと思っています。同じ十一月十三日に食物健康科二年生が、ふつくりんこを使った弁当を北斗市の「あぐりへい屋」で販売しました。一番早い人は朝の六時三十分と並んだそうです。その後、一〇〇枚の整理券はあつという間に完売したと言います。

様々な分野で活躍して表彰された生徒も多くいます。高知県で開催された陸上競技U18全国大会で福祉科二年生の辻菜侑さんが女子砲丸投で五位に入賞したほか、放送部の普通科二年生中安優乃さんが、放送コンテスト全道大会の朗読部門で二位の成績を収め、今年東京都内で開催される全国大会（総文祭）の出場権を獲得しました。また「税に関する高校生の作文」で、普通科三年生の山本ほのかさんが函館税務署長賞を受賞するなどの活躍もありました。更に函館市の青少年活動賞の表彰式が市役所で行われ、家政科一年二組の佐藤穂乃果さんが、町会活動に積

極的に協力したことが評価され、青少年ジュニア活動賞を受賞しました。ソフトテニス部や卓球部をはじめとした運動部の活動や、吹奏楽部の二大会連続の全道大会出場、銀賞獲得などの実績も紹介したいのですが、北海道新聞や函館新聞に掲載されておりますので記事を見て欲しいと思います。

大妻の建学の精神「良妻賢母」も決して忘れてはけません。大妻の使命は「より高い技術を伝授し、資格を取得させ、広く社会に貢献できる女性の育成」です。在学中、学科によつて異なりますが国家資格である介護福祉士や調理師免許をはじめ、多くの資格に挑戦して取得させています。一つの資格取得は「生きる力」になり、二つ目の資格の扉を開けます。これもできるようなった、あれも作れるようになったという、たくさん小さな成功体験の積み重ねは、自信となつて社会で活躍できる源になります。令和四年四月、函館大妻高校創立九十九年目の新入生が入学してきます。たくさんある高校の中から、大妻を選んで入学してくる生徒たちです。卒業まで大事に大切に育てて、社会で活躍できるように背中を押していきたいと思つています。これからも、「大妻は与える教育ではない」「寄り添いながら与える教育である」という、受け継がれてきた伝統を胸に頑張つていく所存です。

新役員紹介

役員欠員にともない、常任幹事・幹事の皆さまに承認されました。どうぞよろしく願います。



副会長 広沢 律子
S 62年卒業
(旧姓 篠原)

副会長をお受けする事になりました。不慣れではございますが、会長や先輩役員の方々に助けて頂きながら楽しく頑張つて努めたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。



会計 福寿 久恵
H 元年卒業
(旧姓 小川)

この度、同窓会の役員のお手伝いをさせて頂く事になりました。人との繋がりを大切に、少しでも皆様のお役に立てるよう心掛けて参ります。微力ですが、どうぞ宜しくお願い致します。

支部便り



暗い出来事が多い中、札幌支部さんからとても嬉しいニュースが届きましたのでお知らせいたします。

今年は思う様に外出も出来ず、つらい事が多かった様な気がします。そんな時、秋に思いつけずに北海道社会貢献賞を受賞しました。針を持つボランティアは、十九年前同じ考えを持つ人とはじめました。布のおもちゃ(手づくり)や絵本を届けて来ました。大妻で学んだ事がボランティアに生かされた事に感謝しております。嬉しくって「おうちしんぶん」にしてお届けします。読んでいただけたら嬉しいです。

三澤 洋子

三澤さんちのおうちしんぶん 2021年12月号

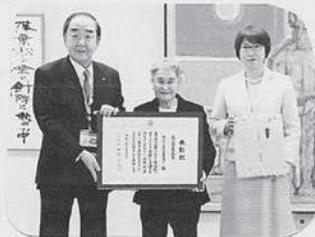
お久しぶりです。今年もあと数日となりました。新型コロナウイルスに明け、緊急事態宣言など不自由な日々でしたが如何お過ごしでしたか、私は4月上旬ボランティア中に体調が悪くなり救急車で病院へそのまま入院となりました。軽い脳梗塞でした。処置が早かったので後遺症も無く10日で退院しました。現在は3ヶ月ごとの検査でしたが、経過が良好で6ヶ月ごとの検査になりました。

シクラメンがきれい

外は寒くて道路もツルツルそんな時、ピンク色の花がほっこり気持ちにさせてくれる

北海道社会貢献賞を受賞しました

辛い事もありましたが、思いけないご褒美がありました。北海道社会貢献賞の受賞でした。授賞式は緊急事態宣言で表彰伝達式は苫小牧市役所で行われ岩倉市長から賞状と記念品をいただきました。(詳細は新聞記事で)



我が家のクリスマスの小物たち

家の中や玄関フードにクリスマスの小物を飾って、郵便屋さんや新聞配達や家に来るお客様をお出迎え！先日読売しんぶんのミニコミ誌から取材の依頼がありお正月明けに取材がありクリスマスが終わるとすぐお正月の小物たちの出番です。



緊急事態宣言で、外出も出来ず不自由な生活を過ごした1年間でした。来る年は穏やかな年でありますように12月に入りオミクロン株や、足下が滑りやすい季節、異々もお気を付けてお過ごし下さい。まだ不慣れで今回もフォトレーターで近況をお伝えしました。どうぞよい年をお迎え下さい。

布作品子どもに贈り20年

苫小牧のサークル道社会貢献賞を受賞

苫小牧市のボランティアサークル「キルト♡ポエムとまごまい」が本年度の北海道社会貢献賞(地域活動推進功労者)を受賞した。キルトや手縫いした布絵本を保育園などに寄贈して約20年。会長は三澤洋子さん(81)は「淡々とやってきたが、誰かが活動を見てくれたと思うとうれし」と受賞を喜ぶ。

豊かな地域社会づくりに顕著な功績のある団体や個人に贈られる賞で、本年度は同サークルを含め8団体と3個人が受賞した。

同サークルは「苫小牧の身近な子どもたちに喜んでもらいたい」と仲間が集まり2002年に結成。これまで苫小牧市内の保育園や

小樽市の乳児院に縦横約180センチのじゅうたんや毛布代わりにするキルトのほか、布で縫い合わせたポエム、布絵本などを寄贈してきた。

現在は会員約25人で、市民活動センターで月1回、キルトや布絵本などをミシンや手縫いで制作している。

三澤さんは「自分たちも子どもたちからエネルギーをもらって、楽しく作品を作っている。今はコロナウ

イルスの影響で保育園への寄贈を中断しているが、たくさん作りためてまた寄贈ができれば」と話す。(小野柚香)

サークルで作った作品を手に受賞を喜ぶ三澤さん



2021年10月8日北海道新聞

会報「いとぐるま」の郵送には、皆様からの年会費が必要です

これまで同窓生の皆様には、多大なご協力をいただきてまいりましたが、残念な事に、年々、「年会費」の振込が減少してきております。「いとぐるま」がお手元に届きましたら、忘れずに年会費のお振込をお願い申し上げます。平成26年度より、以下の方のみに「いとぐるま」を郵送しております。

- 年会費、寄付金を送金して下さった方
- 総会・親睦会に出席して下さった方
- 同窓会にご協力下さった方
- 新入会員で母校卒業後10年以内の方

「函館大妻高等学校」のホームページの一番下の「いとぐるま」(バナー)をクリックすると本年度だけではなく、歴代のいとぐるまも閲覧できますので、是非ご覧ください。

母校創立百周年にむけて、今後ともご支援ご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

<http://www.hakodate-otsuma.ed.jp>

体育館は三十五歳!!

大田 幸美
S 62年卒業(旧姓山形)

私が三年生の時、一九八六年十月六日、ピカピカの体育館が完成しました。バスケットコートが二面も取れる大ききで、床はモップがけ、シャワー室や水洗トイレも完備され、あくもつと早く出来ていればと夏にバスケ部を引退していた私は後輩達がともうらやましく思ったのを覚えています。

第二に格下げになったそれまでの古い体育館は、床はぞうきんがけ(それも一人三枚持ち)、夏はどこまでも暑く、冬は冷凍庫よりも寒く、部活生の根性を鍛えるにはもってこいの場所でありました。

左下にある写真は、完成記念に当時の在校生に配られた日本手ぬぐいです。もらった時は、ボールペン等の文房具ではなく、手ぬぐいを選ぶところが大妻らしさが出ているなあと思いますが、高校生が手ぬぐいの良さをわかるはずもないままにタンスの中で眠っておりまして。最近、日本手ぬぐいがひそかなブームとなり、それではと食器ふきんとして使ってみると、とても使いやすいと清潔で長持ちな事に三十五年経ってやっと気づく事ができ、大変感謝しております。

新しい体育館とは、約半年間のお付き合いではありましたが、一番の思い出は卒業式です。私達昭和六十二年卒業生が、第一体育館の一回目の卒業生となりました。ステキな体育館での旅立ちには、今でも鮮明に頭の中のアルバムに残っています。これからもたくさんの方の行事を共に過ごす体育館が学生時代の良き思い出の一つとなることを心より願っております。



第1体育館落成記念式典

【手ぬぐい以外は卒業記念アルバムより掲載】



完成したばかりのピカピカの体育館



体育館外観



100周年記念誌作成への取材のお願い

昨年のご案内させていただいておりましたが、令和5年(2023年)、函館大妻高校創立100周年を迎えるにあたり、同窓生の皆さまが脈々と引き継いでこられた大きな歴史と地域社会への功績をぜひ記録に残したく、記念誌を作成したいと考えております。会員の皆さまには大妻高校での思い出をお寄せいただきたく改めてお願い申し上げます。

1. 取材内容 『学園への思い』

- 1) 母校での思い出(先生・授業・部活動・友人・校舎・通学・放課後 など)
※外山ハツ先生に限定いたしません。
- 2) 卒業後に感じたこと
(家庭人として・職業人として・親として など)
- 3) これからの母校に望むこと
(新たな道を・いつまでも など)

2. 取材方法

- 1) 作文 2) 電話 3) メール など

なお、本校では「ものかき工房」の高山潤氏に記念誌作成を依頼しておりますので、取材に関しては、記念誌担当の齊藤賢一と高山氏が共同で行います。

【お問合せ】 函館大妻高等学校 記念誌担当 齊藤賢一 〒040-0002 函館市柳町14番23号
電話:0138-52-1890 FAX:0138-52-1892 電子メール:otsumajh@ms1.ncv.ne.jp

トピックス

家政科

令和三年十一月十三日(土)、函館市芸術ホールにおいて、第九回家政科学習報告会を開催しました。当日は新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言等が解除された状況下であり、生徒たちは、日頃の学習成果をのびのびと発表することができました。今年度はファッション等の現場で活躍している先輩方との初のコラボレーション企画もあり、ステージは大いに盛り上がりました。そのような姿を保護者や来賓、中学生の皆さんの前で披露できたことは、生徒たちの貴重な糧となりました。この経験を各人が日々の生活につなげ、さらに成長することを願います。



学びの成果を披露。喜びに包まれた時間

福祉科

今年度も校外実習は、新型コロナウイルス感染症対応の必要性から一部、校内実習へ切り替えとなりましたが、現場へ出た際も積極的に行動できるように、生徒が不安になりがちな部分を重点的に押さえました。特に介護過程と生活支援技術の学びの機会にできました。距離の確保やマスク装着の制約がある中、生徒たちが自発的に考え行動し、真剣に取り組む姿を見ることができました。介護実習体験報告会も今回は、校外実習で学んだハウツーをまとめた冊子(写真)の配付としました。見るだけでなく活用できる内容で、次世代へのプレゼントにもなりま

配付した「How to 介護実習」冊子



校内実習の様子

食物健康科

令和四年二月五日(土)、食物健康科三年生が保護者の皆様へ感謝の気持ちを込め、日本料理を振る舞いました。当初、学科の先生方から「自分たちが心から納得したものを作り上げるには、厳しい意見交換をしなければならぬ」と指導されても、生徒たちは本音を話せば人を傷つけるかもしれないと恐れ、壁にぶつかりました。しかし良いものを作りたいのは皆同じ。その先にある本物を味わいたいと心を入れ替え、一丸となって取り組みました。無事に今年度も実施できた学科の伝統行事、皆様へ生徒たちの心が伝わる達成感に満ち溢れた一日となりました。



本気の話し合いと練習・工夫を重ね、迎えた佳き日

普通科

普通科では今年度より三年生を対象として、卒業後に役立つ知識の習得を目的に「特別授業」をカリキュラムへ組み入れていきます。「租税教室」「年金セミナー」「金融セミナー」では、教科書や資料集には記載のない詳細な内容や、函館市や北海道を中心に身近な地域を事例に挙げた授業を行い、生徒の関心を高めました。次年度は一・二年生の進学希望者へも展開し、「アドバンス」コースの新設、「医療事務」「一般教養」「ワープロ検定」のコース制授業等も実施の予定です。これらにより普通科の「ブランド力」をさらに高いものにしたいと考えています。



特別授業の様子

